

# 茨城大学の教育と研究について

2024年4月5日

 環境研究総合推進費  
戦略的研究開発 S-18

環境研究総合推進費  
戦略的研究開発 SI-11

参加無料  
対面 / オンライン

世界中で激しい気象災害が広がり、地球環境の将来に対する危機感が高まっています。それに対してカーボンニュートラルと適応策両面での対応策の加速が叫ばれ、我が国でも対策の進展が求められています。本シンポジウムでは、IPCC第6次及び第7次評価の共同議長をお招きし、気候変動問題に関する最新の知見を紹介するとともに、今後の課題について議論します。

気候変動国際シンポジウム  
未来ビジョン  
気候変動対策と  
適応・緩和研究の展望

日[水]  
術研究センター  
目的スペース  
の詳細・参加登録は  
ください。  
3%83%bbseminar/post-2017/



茨城大学がプロジェクトリーダーを務めるS-18（環境省）  
「気候変動影響予測・適応評価の総合的研究（2020-2024）」



写真上 教学イノベーション機構（スチューデントサクセスセンター(SSC)、グローバルエンゲージメントセンター(CGЕ))  
写真右 カーボンリサイクルエネルギー研究センター(CRERC)の開設



# 茨城大学の概要

2024年は、新制大学として75周年、ルーツ校である拡充師範学校の創設（1874年）から数えて創基150周年を迎えます。

設立年月日

1949年5月31日

本部所在地

茨城県水戸市

学長

太田 寛行

(おおた ひろゆき)

キャンパス

水戸、日立、阿見、東海サテライト

学部

人文社会科学部、教育学部、理学部、工学部、農学部、地域未来共創学環

大学院・専攻科

人文社会科学研究科（修士課程）、教育学研究科（専門職学位課程）、理工学研究科（博士課程[前期・後期]）、農学研究科（修士課程）、連合農学研究科（博士課程[後期]）、特別支援教育特別専攻科

学生数

8,054名（学部6,746名、専攻科19名、大学院1,289名）

附属学校園

教育学部附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校（小学部・中学部・高等部）

生徒数

1,174名（幼稚園100名、小学校605名、中学校423名、特別支援学校46名）

教職員数

853名（専任教員：494名、専任教諭：84名、専任職員275名）

総予算額

143億7百万円（一般会計・特別会計の合計：2024年度）

※ 人数は、2024.4.1現在

# 10万人を超える卒業生・修了生

※ 人数は、2024.4.1現在

## 修士・博士:

人文(人文社会科)学研究科(Ms.)	692
教育学研究科(Ms./M.Ed.)	1,711
理工学研究科(Ms.)	8,848
理工学研究科(Dr.)	664
農学研究科(Ms.)	1,651
合計	<b>13,566</b>

## 論文博士: Doctorate by thesis only

理学	446
工学	1,490
農学	328
合計	<b>2,264</b>

## 学士: (Ba.)

人文(人文社会科)学部	18,415
教育学部	25,560
理学部	9,728
工学部	27,642
農学部	8,076
(文理学部)	2,605
合計	<b>92,026</b>



最近の  
卒業式風景

# 24の国・地域 / 77大学・機関と協定を結び、教育研究で連携しています

## 大学間・学部間交流協定機関 (24の国・地域/77大学・機関)

◎ 大学間交流協定校  
 ○ 学部間交流協定校  
 朱字：学生交流協定校



2024年2月9日現在

# イバダイ・ビジョン 2030

## 「自律的でレジリエントな地域が基盤となる 持続可能な社会の実現」を目指しています

自律的でレジリエントな地域が基盤となる持続可能な社会の実現のために以下の3つを実行します。



世界の俯瞰的理解と多様な専門分野の知の追究



多様な主体を結びつける結節点としての機能強化



持続可能な環境づくりのための先進的行動の展開

そのために、4つの分野で以下のビジョンとアクションを掲げます。

### 教育

多様な構成員から成るキャンパスにおいて、  
社会変化に柔軟に対応できる、  
学修者本位の学びにより成長を実感できる教育の追求

### 地域連携・グローバル化

地域と世界の結節点となり、  
市民と連携した活力ある地域社会の形成

### 研究

研究力の強化と「知」の好循環の確立による  
持続可能な社会の構築への寄与

### 大学運営

強固で柔軟な経営基盤の確立、  
社会から信頼される大学運営、教職員の活躍・成長



情報ページ (大学HP)  
QRコード (大学HP) (大学HP) (大学HP)

## 具体的な取組

### 2023年度からスタート

#### ■ カーボンリサイクルエネルギー研究センター

国内外から優秀な若手の研究者が集積。欧州等の世界の  
動向を見据えた、世界トップクラスの研究・教育拠点

#### ■ グリーンイノベーション (GI) 基金事業への参画

バイオものづくり技術によるCO2を直接原料としたカーボン  
リサイクル。食料・農林水産業のCO2等削減・吸収技術の開発

### 2024年度からスタート

#### ■ 地域産業に貢献する製造系高度ITエンジニアの育成強化

文科省「令和5年度 大学・高専機能強化支援事業（成長分野  
をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）」

#### ■ 地域未来共創学環 (4月)

57年ぶり学部新增。国立大学初、コーオプ実習を必修化

#### ■ ダイバーシティ・マネジメント地域共創リーダー教育プログラム

文科省「令和5年度大学教育再生戦略推進費 人文・社会科学系  
ネットワーク型大学院構築事業」

#### ■ 原子科学研究教育センター

これまでの原子科学分野における研究実績を基盤として  
さらに展開する拠点を形成

# 茨大開学時からのキーワード：「野心満々たれ」

## — 第1回入学式における鈴木京平学長式辞 —

7月20日に炎天下の屋外で開かれた第1回入学式で、鈴木初代学長は以下のように学生を励ましました。

「大學は教養の高い、豊かな人物の養成につとめるが諸君は個性を生かさねばならない、文理系から大発明家が出て教育系から政治家大新聞人が出て不思議ではない、諸君は自由意思で自分を啓発してゆくことである、強制をうけなければ義務責任を果たせないのはいけない私は自由啓発といっている、茨城の地は日本歴史上文教の地として異彩を放っている、時勢は移り變（かわ）つたが日本文化の中心地となるような學風をつくつて貰いたい、**諸君が茨城大學の先頭である、野心満々たれ**」

昭和24年(1949年) 5月31日開学



茨城大学開校式で訓示する鈴木学長

茨城大学 VISUAL CHRONICLE

<https://www.ibaraki.ac.jp/chronicle/index.html>

**茨大初の入學式**  
きょうり同大學本部で舉行

新聞茨城大開校式は二十日、長の祝賀の慶生代客の盛況あり、午前十時から水戸市三ツ橋内にて式を執り、文藝部は水戸、工部大、農学部で行われ、鈴木学長、師部は多賀、教育部は土浦、工部大、農学部、文藝部、山本水戸市、日の入學式でなければならぬ。

茨城大学開校式は、きょうり同大學本部で舉行、文藝部は水戸、工部大、農学部、文藝部、山本水戸市、日の入學式でなければならぬ。

六日、小千部開校式は、きょうり同大學本部で舉行、文藝部は水戸、工部大、農学部、文藝部、山本水戸市、日の入學式でなければならぬ。

茨城大学開校式は、きょうり同大學本部で舉行、文藝部は水戸、工部大、農学部、文藝部、山本水戸市、日の入學式でなければならぬ。

# 茨大が築いてきた「教育の質保証システム」

## 茨城大学のディプロマポリシー（DP）

### 1. 世界の俯瞰的理解

自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解

### 2. 専門分野の学力

専門職業人としての知識・技能及び専門分野における十分な見識

### 3. 課題解決能力・コミュニケーション力

グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、及び実践的英語能力を含むコミュニケーション力

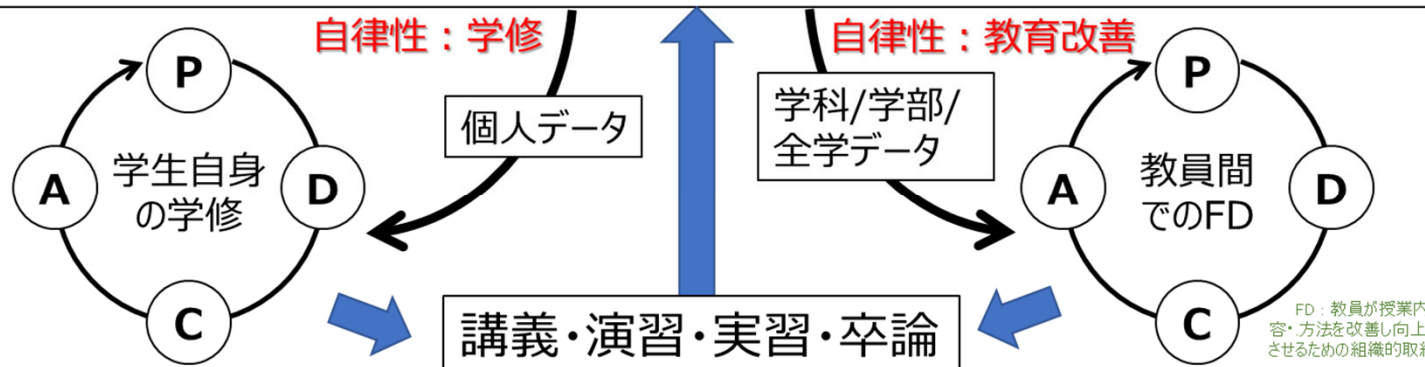
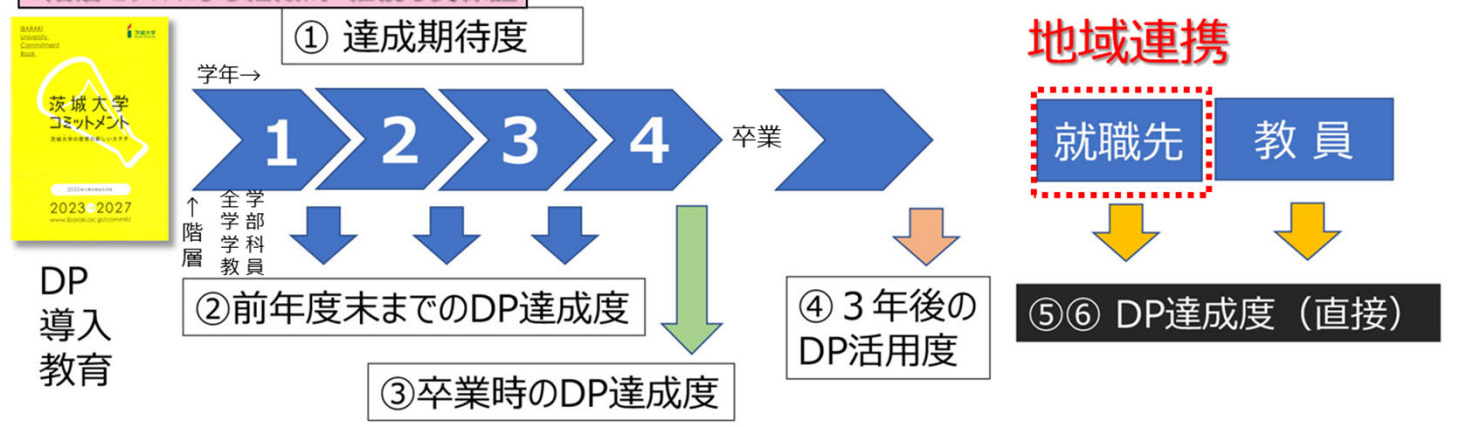
### 4. 社会人としての姿勢

社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性

### 5. 地域活性化志向

茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

## 4階層モデルによる組織的・継続的な質保証



注入他律の教育を排し、自由啓発主義に則り、全学、各教科目の指導教員、厚生補導関係の職員等は、常に提携して教室内外に於ける学生の自発的自治活動を奨励し、常に学生の個性発見に留意し、学生自らの力によって天賦の能力を啓発するように導くことに努める。（茨大設立時の教育方針）

# これまでの「教育の質保証」の取組を書籍化しました —『現場が動きだす大学教育のマネジメントとは』、2023-4-28に発売—

編者：太田 寛行（茨城大学学長）・  
 畠田 敏行（茨城大学全学教育機構教授）  
 著者：「茨城大学コミットメント」プロジェクト



## 〈目次〉

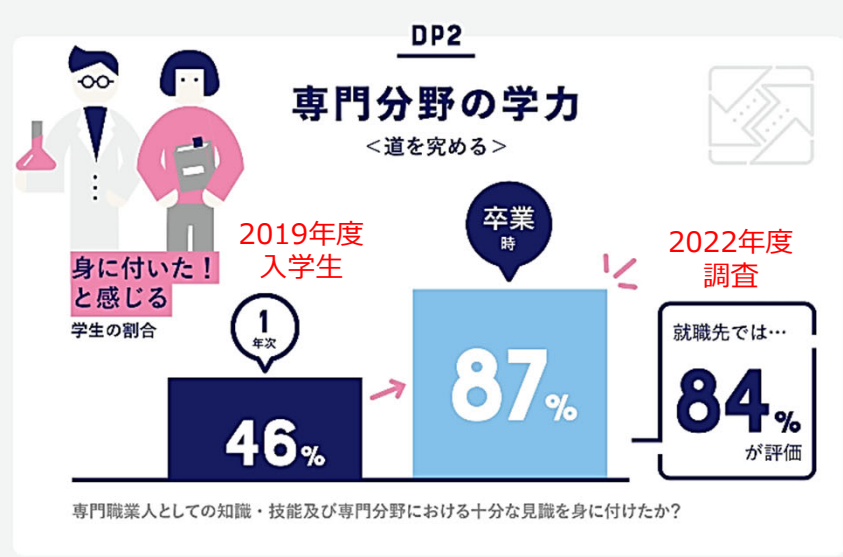
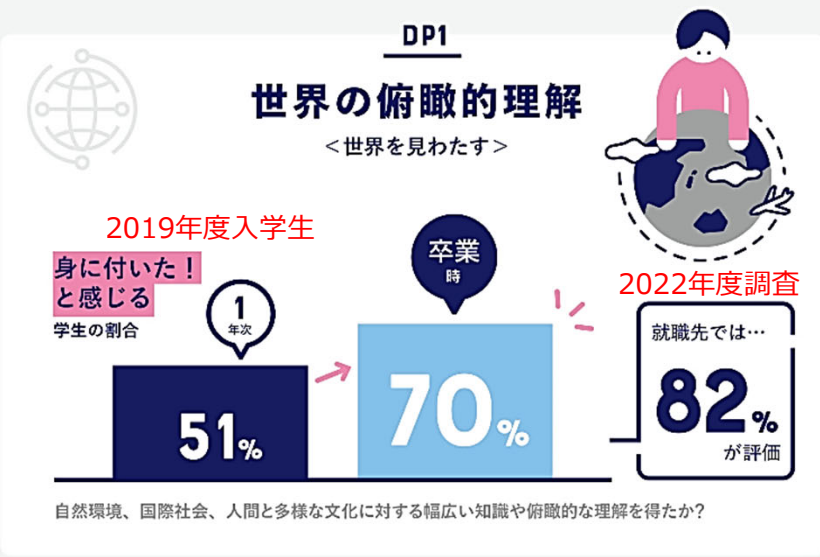
### 第1章 茨城大学「教育の質保証」システム構築の物語

1. 大学の教育は誰のもの？—大学評価の歴史と茨城大学型マネジメントの萌芽
2. 全学の教育目標をつくる—「何もしない大学」を変えたディプロマ・ポリシー
3. 「教育の質保証」とは何か—学修データと大学運営
4. 質保証の現場と物語のカーデータの「弱い活用」とコミュニケーション
5. 教育の成果はどう現れたか、そして未来へ—実現した「チーム茨大」が目指すもの

### 第2章 【実践編】内部質保証システムはこうつくる—組織的・継続的な教育マネジメントへの提言—

ISBN-13 : 978-4297135096





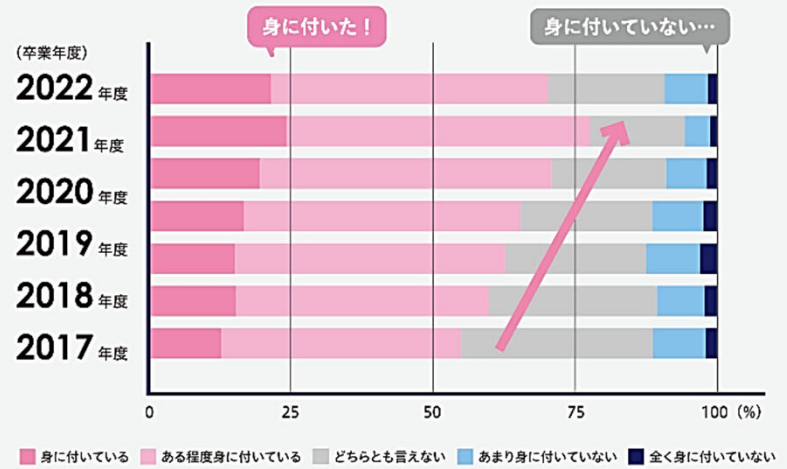
# みんなのサクセス Data Information

茨大生が身に付けている「チカラ」



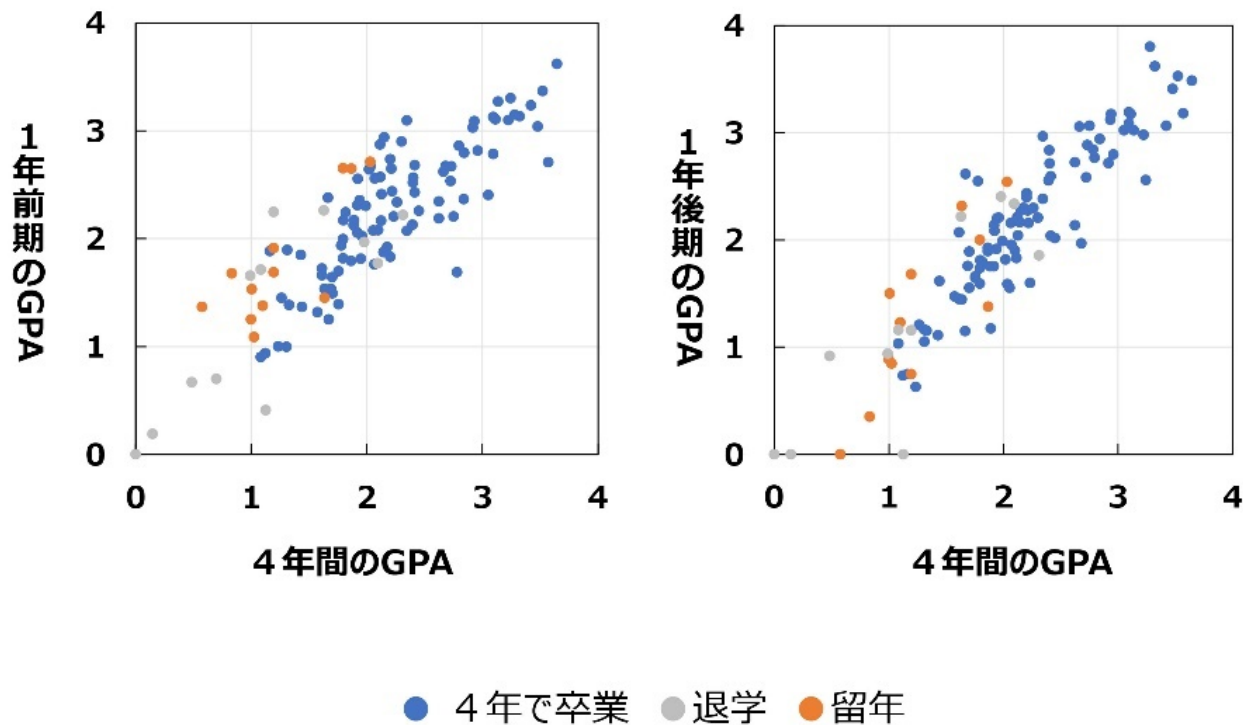
## 卒業時の学修達成度の変化

「身に付いている」と回答する卒業生の割合が年々増えています。



初年次の成績と4年間の成績は正の相関があります

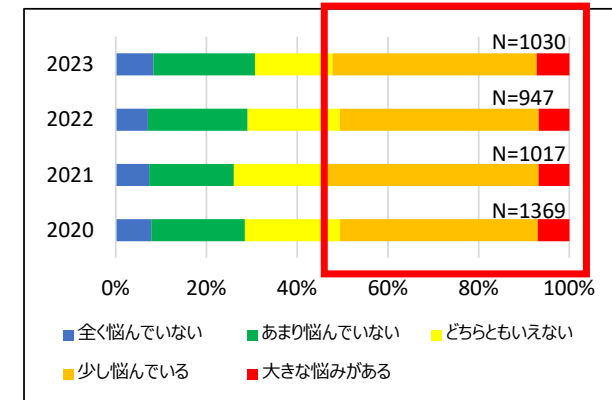
## 初年次成績と4年間の成績



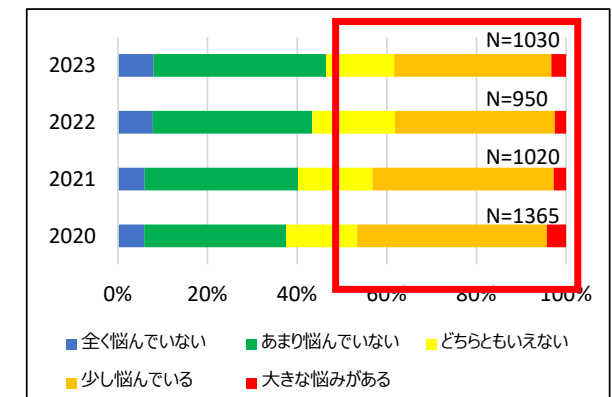
Department of Assessment and Planning for Higher Education, Ibaraki Univ., 2021

1年次生については、「将来に関すること」「学業」の悩みが大きいことを把握しています

〈将来に関すること〉

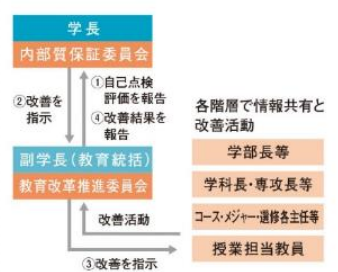


〈学業〉



# 様々な社会問題を抱える我が国では、「学修者本位の教育」を行うことが、大学に求められています (ベネッセの高等教育情報誌“Between”の310号(2023年)では特集が組まれ、茨城大学の取組が紹介されました)

**【図表4】学修者本位の内部質保証取り組み例**

大学	茨城大学 茨城県水戸市、日立市、稲敷郡阿見町／学生数：8,022人／学部：人文社会科学、教育、理、工、農
体制図	
主な推進組織の役割	<p>教育改革推進委員会 【学修成果の可視化】FD/SD支援システム 【4階層質保証】教育改善施策立案 ※4階層：全学・学部・学科・教員 学部・学科・コース等 【学修成果の可視化】卒論ルーブリック、DP達成度・学生調査データの可視化 【4階層質保証】教育プログラム・レビュー、学部FDで全体共有 教員 【学修成果の可視化】IRデータによる授業点検 【4階層質保証】授業点検</p> <p>全学教育機構(学生支援部門)：「学長と学生の懇談会」のコーディネーター 広報室：成長実感の醸成、茨城大学コミットメント</p>
学生の関与	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ マクロな視点では、現在の内部質保証体制に、すでに学生の参画を組み込んでいる。</li> <li>▶ 教育改善は、学生の自己評価(DP達成度)をベースに推進。</li> <li>▶ カリキュラムと学生生活支援を一体的に捉えた「総合ポリシー」の下、「学長と学生の懇談会」を定期的に開催。</li> </ul>
改善例	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 授業アンケートのデータを基に、各学部・学科・教員が教育改善を実施。総体的に「授業の理解度」「満足度」が向上。</li> <li>▶ 学生の自己評価で、DP達成度が向上。</li> </ul>

## After

「大学＝教職員と学生とでつくり続けるもの」

学生は教育を受けるだけでなく、よりよい教育づくりの担い手でもある。



「現在、高等教育機関で学んでいる学修者には、既に続く学修者の学びも含めて高等教育が充実していくために、これから行われる高等教育改革に参画することを期待している。これは、ブランドデザイン各中の結びの言葉だ。急速に進む人口減の中で、今後の大学の行く末を担うのは、ほかでもない、「大学教育で成長した実感のある」学生だろう。

今号では、「学修者本位の大学づくり」の重要な担い手として学生を捉え、学生参画型の大学づくりのあり方を考えてみたい。

「現在、高等教育機関で学んでいる学修者には、既に続く学修者の学びも含めて高等教育が充実していくために、これから行われる高等教育改革に参画することを期待している。これは、ブランドデザイン各中の結びの言葉だ。急速に進む人口減の中で、今後の大学の行く末を担うのは、ほかでもない、「大学教育で成長した実感のある」学生だろう。

今号では、「学修者本位の大学づくり」の重要な担い手として学生を捉え、学生参画型の大学づくりのあり方を考えてみたい。

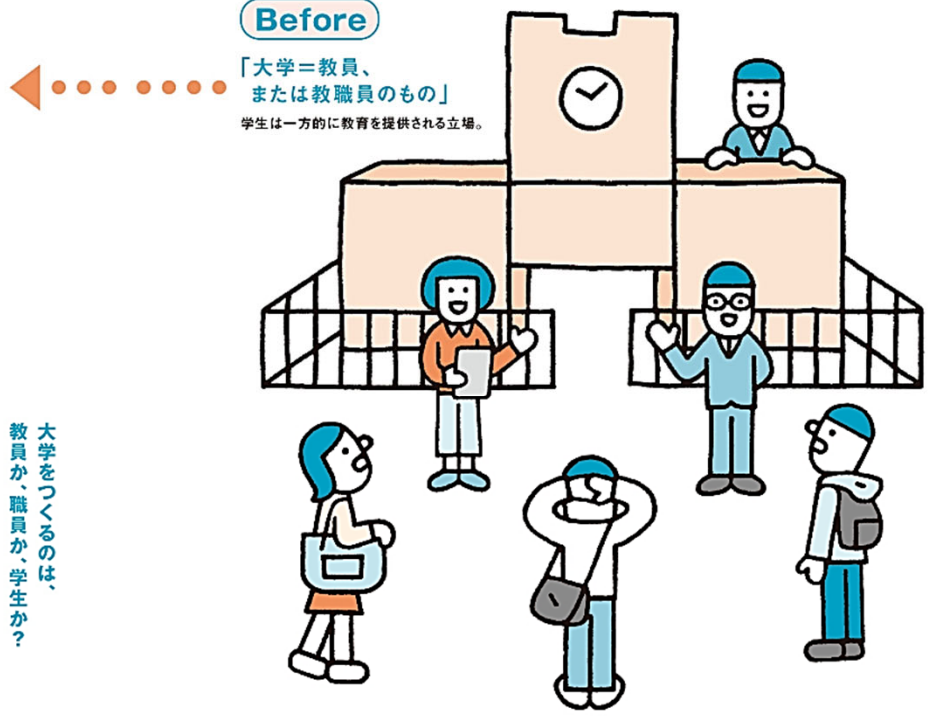
## 学生の声が改革の起点に!

# 学修者本位の大学のつくり方

## Before

「大学＝教員、または教職員のもの」

学生は一方向的に教育を提供される立場。



大学をつくるのは、教員か、職員か、学生か？

文/編集部

※大学概要は学部のみ記載しています。

# 「学修者本位の教育」のさらなる推進 →“スチューデントサクセス”

## スチューデントサクセスとは：

単に良い成績を取ることや卒業まで着実に学修を進めるだけでなく、自分が努力した成果を評価し、自分の目標や価値観に基づいて充実感を感じることに、すなわち、どれだけ「**なりたい自分**になったか」

茨大の“スチューデントサクセス”のルーツは、鈴木・初代学長の開校式の訓示の中にあります

→ → →

「大学は教養の高い、豊かな人物の養成につとめるが諸君は個性を生かさねばならない、文理系から大発明家が出て教育系から政治家大新聞人が出て不思議ではない、諸君は自由意思で自分を啓発してゆくことである、強制を受けなければ義務責任を果たせないのではいけない 私は自由啓発といっている、茨城の地は日本歴史上文教の地として異彩を放っている、時勢は移り變（かわ）つたが日本文化の中心地となるような學風をつくつて貰いたい、諸君が茨城大学の先頭である、野心満々たれ」

## あなたのサクセスを支える 6つの視点

SIX ELEMENTS FOR STUDENT SUCCESS



## スチューデントサクセスを支える 4 つのポイント



学びの達成度がよく見える

### DP ルーブリック

学生のみなさんには、毎年次、それぞれの学びの達成度合いを振り返ってもらいます。その際の手がかりとなるのが茨城大学独自の「DPルーブリック」です。授業やプログラムの履修状況や課外活動の経験をもとに、ディプロマ・ポリシー (DP) の各項目と照らし、達成できている内容とそのレベルや課題を確認することができます。自らの立ち位置を知り、達成度を実感することが、みなさんの「サクセス」の土台となります。



サクセスを見つける・高めるためのプログラム

### プラス I プログラムと iOP

茨城大学の学部・学環での専門的な学びは、DP の達成とみなさんの「サクセス」の基盤となるものですが、さらに自分自身を高め、社会とつながることができる全学共通の仕組みが、「プラス I (アイ) プログラム」と「iOP」の2つです。自分の「サクセス」を深掘りしたい、もっと高い技術や見識を身に付けたいと思ったとき、そのためのチャンスとサポートが茨城大学には豊富にあるのです。



あなたのサクセスのためのワンストップ窓口

### スチューデントサクセスセンター

みなさん一人ひとりの「こうなりたい」「こうありたい」という主体的な願いや行動と向き合い、さまざまな悩みにワンストップで対応することを目指した「スチューデントサクセスセンター (SSC)」を設けています。



みんなで作るスチューデントサクセス

### 学生・教職員・地域のパートナーシップ

茨城大学では、学生や地域の人たちが参画して教職員と一緒に教育の状況を点検する仕組みを、全学で設けています。みなさんの学びの達成度や授業アンケートを参照しながら、授業やカリキュラムを検証し、日々の教育改善に取り組んでいます。

## 茨 AI プラス I プログラム

どの学部・学環でも学べる  
「サクセス」を高めるプログラム

### サステナビリティ学 教育プログラム

サステナビリティ=持続可能性。気候変動など地球環境問題の原因と解決、防災・減災、人間社会への影響などを分野横断的に理解します。

### 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

人工知能 (AI) と数理・データサイエンスの基礎的な素養を学び、適切に理解・活用する力を身に付けます。

### アントレプレナーシップ 教育プログラム

ビジネスに関する授業、起業家による講義、インターンシップなどを通じて、時代の流れとともに変化する社会を支え、改善するための資質を育てます。

### グローバルコミュニケーション プログラム

グローバル社会で多様な人びととコミュニケーションをするための総合的な英語力育成や海外学生との協働を図るプログラムです。

### 地域志向 教育プログラム

地域の課題の改善に関わる取り組みへの参加やプランニングの経験を通じて、地域を多角的に捉えながら地域課題と向き合う知識・姿勢を養います。

### 日本語教員 養成プログラム

外国語としての日本語を指導するために必要な知識・能力を身に付けます。日本でも増えゆく外国人住民へのサポートにもつながります。

## 茨 iOP internship Off-campus Program

茨城大学では3年次の第3クォーターを「iOPクォーター」と名付け、原則的に必修科目を開講せず、キャンパス内外での主体的な学びを奨励しています。毎年たくさんの学生たちが、海外研修やインターンシップ、サービラーニング、発展学修に取り組んでいます。

海外研修

日本を飛び出し海外の協定校等で学修

インターンシップ

企業や自治体等での就業体験

サービラーニング

多様な現場でのボランティア

発展学修

コンテスト出場やチュートリアル

iOPの優れた活動を表彰する  
「iOP-AWARD」を  
毎年開催!



※iOPクォーター以外の期間でもiOP活動に取り組むことができます。  
※工学部では6年一貫教育の5年目(大学院博士前期課程1年次)の第3クォーターにiOPと同等の学外実習OFF-CLASS-PROJECTが設けられています。  
※地域未来共創学環ではiOPクォーターの期間を中心にコープ実習が行われます。

# スチューデントサクセスセンター (SSC) \_ 学生相談体制

【2024年4月～】 14

**SSC**

スチューデント  
サクセスセンター

- 「学生の自己実現（なりたい自分になる）」を教職協働で全面的に支援  
⇒ 学生対応に係る機能・体制の強化・充実を段階的に進める
- 全学の共通教育の企画・運営（共通教育科目の開設部局）

one-stop  
one-on-one

工学部  
農学部

## 学生窓口

### スタディサポート室

室長：現共通教育部門長相当  
副室長：学務課長

学務課

【教員】

(専)理系基礎  
(専)倫理・社会系

- 基礎教育、プラス-Iプログラムの履修
- iOP (internship Off-campus Program)
- 教員免許・各種資格
- ポータルシステム・manaba、PC貸出
- 証明書発行・学割申請、学生証

- 理系基礎の支援
- サービスラーニング

### スチューデントライフサポート室

副室長：学生支援課長

学生支援課

室長

現

学

生

支

援

部

門

長

相

当

【教員】

(専)バリアフリー担当  
(兼)各学部・学環教員

※アクセシビリティ支援室と連携

- 経済的支援（学費免除、奨学金）
- 課外活動
- 学生寮、学研災保険
- 休学・退学
- 障害等による学修支援
- 健康・メンタル相談

- ボランティア活動

### キャリアサポート室

副室長：キャリア支援課長

キャリア・就  
職支援課

【教員】

(専)キャリア支援担当  
(兼)各学部・学環教員

- 就職相談
- 進路相談
- 就職活動相談

- インターンシップ

### グローバル教育サポート室

室長：国際教育部門長相当  
副室長：国際連携教育課長

国際連携  
教育課

【教員】

(専)英語担当教員  
(専)現国際教育部門専任教員  
(兼)各学部・学環教員

※グローバルエンゲージメントセンター教員と連携

- 海外留学
- 短期海外研修プログラム
- 国際交流チューター

- 外国人留学生支援
- 国際交流会館

- 英語学修の支援

なんでも相談室

FS

Freshman Success

あらゆる相談（特に初年  
次生相談）を受け、  
適切な窓口を紹介・案内

SS

Study Success

卒業・修了に向けた、総  
合的な学修相談と履修  
案内等により学生の学び  
をサポート

AS

Academic Support

学生一人ひとりの学修の  
進展に合わせ、適切な補  
習教育の紹介や学修方  
法をサポート

SA

Study Away

学生の学外における主  
体的な活動や社会・地  
域連携活動等の紹介・  
相談

CD

Career Design

「将来のこと」「なりたい  
自分になる」を焦点に、  
キャリア形成をサポート

LS

Life Smart

経済支援・心身の健康・  
課外活動など、学生の  
キャンパスライフを総合  
的にサポート

連携強化

## 主な連携強化等の方向性

全般

○水戸SSCによるオンライン相談体制の強化（MS365を活用を想定）

AS・SS関係

○理系リメディアル教育の充実と、学生への「科学の基礎質問室」の周知強化

○英語学修サポートの充実（ALC相談員による自主学習支援）

SA関係

○留学生獲得・学生海外留学支援の連携強化（グローバルエンゲージメントセンターも）

LS関係

○「バリアフリー」対応について、水戸SSCを中心とした対応の継続

CD関係

○水戸SSCと両学部「就職支援室」との組織的連携の強化

→水戸SSCの広範分野の工・農学生への展開強化と、工・農学部の専門分野の全学展開

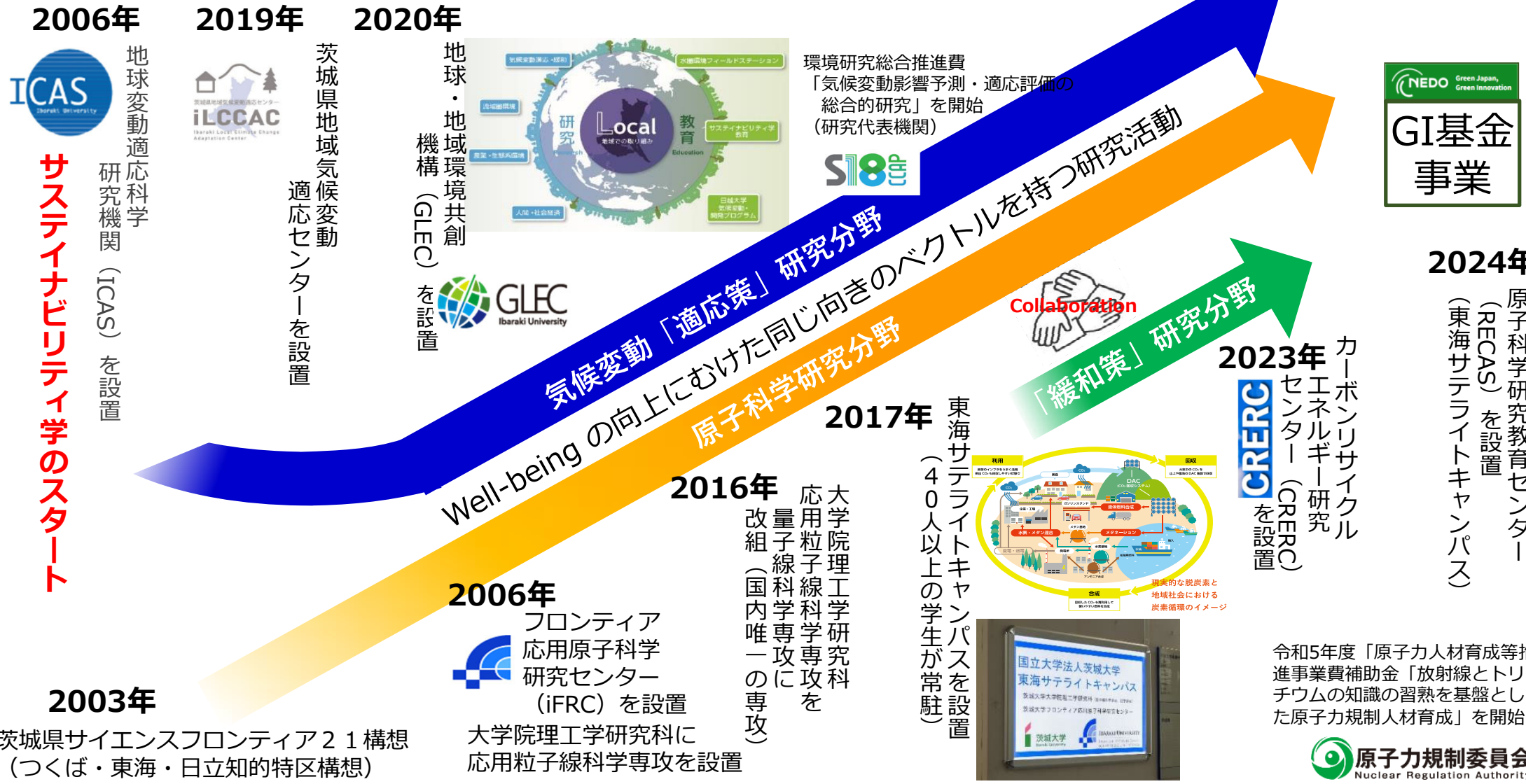
○工・農志願者増に向けた、中高生へのキャリア教育充実のための連携強化（AC、アウトリーチ支援室とも連携）

副センター長（スタディサポート室長）

センター長（副学長（教育改革））

副センター長（学務部長）

# 茨城大学が取り組んでいる重点研究分野



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 「SDGs」のずっと前から 取り組んでいる 茨大のサステナビリティ学



ヒュマニシンの標本



茨城大学創立とともに  
湖沼研究室発足

霞ヶ浦、涸沼などの  
湖沼資源の環境・生態系、  
持続可能な農業の研究

臨湖実験所を  
霞ヶ浦に



「サステナビリティ学」スタート



南アジア、東南アジア  
地域での研究・教育

SDGs  
国連総会で採択

令和2年度  
気候変動アクション  
環境大臣表彰



GLEC、気候変動  
アクション  
環境大臣表彰を受賞



Carbon Recycling Energy  
Research Center



カーボンリサイクル  
エネルギー研究  
センター設立

新しい教育プログラムもスタート!

サステナビリティ学  
教育プログラム(学部生対象)

1949 1970

水圏環境の研究の歴史

2006

地球変動適応科学研究機関(ICAS)開設

2015

SDGs  
国連総会で採択

2020

地球・地域環境共創機構(GLEC)  
開設

2023

Carbon Recycling Energy  
Research Center





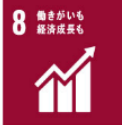

カーボンリサイクル  
エネルギー研究  
センター設立





新しい教育プログラムもスタート!

サステナビリティ学  
教育プログラム(学部生対象)

2024



茨城大学が     で **国内最高位レベルにランク!**

国内総合では**17位にランクイン!** 世界トップ100には、    ※1 がランクイン。

6月1日、イギリスの「Times Higher Education (THE)」が、SDGsの枠組みを用いた最新の世界大学ランキング(115の国・地域から過去最多の1705校が参加)「THE Impact Rankings 2023」を発表。SDGsの17のゴールごとのインパクトランキングで、茨城大学は「ゴール4:質の高い教育をみんなに」、「ゴール7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「ゴール8:働きがいも経済成長も」と「ゴール10:人や国の不平等をなくそう」の4つが国内大学での最高位レベルにランクされました。

特に「ゴール7」については、昨年度改訂した「茨城大学グリーン化推進計画」(茨大GXプラン)でSDGs達成への貢献を明記した意欲的な計画を示している他、カーボンニュートラルの連続講演会を実施するなど、社会への積極的な情報発信を行っていることが評価されたと考えられます。今年4月には「カーボンリサイクルエネルギー研究センター(CRERC)」を立ち上げ、エネルギーの研究を大学として重点化。この分野についてさらなる貢献に努めていきます。

また、「ゴール10」については、SDGs・ダイバーシティを担当する理事を配置し、バリアフリー推進室を中心に障害のある学生への合理的な配慮の取組やピアサポート、加えて、ダイバーシティ推進室を中心に大学における多様で包摂的な環境づくりに努めていることなどが評価されたと考えられます。

茨城大学では、引き続き研究・教育活動を通じたSDGsの達成に貢献していきます。

今年で5回目となる「THEインパクトランキング」は、国連の持続可能な開発目標・SDGsに掲げられた17の目標の枠組みを用いて、研究、管理責任、アウトリーチ(現場における実践)、教育という4つの分野から大学の取り組みを評価し、ランク付けするもので、サステナビリティにおける大学の貢献度を示すランキングとされます。

各大学が強みに合った目標を選んでエントリーしたデータがポイント化され、ランキングに反映されます。茨城大学はすべての目標にエントリーしていました。今回は世界の1,591大学がランクインしており、茨城大学は世界で301-400位というスコアでした。



	( ) 世界Rank
SDG 1 (貧困) : 立命館大学	(=19 ※2)
SDG 2 (飢餓) : 京都大学	(=30)
SDG 3 (保健) : 名古屋市立大学	(=7)
<b>SDG 4 (教育) : 茨城大学 他</b>	(401-600)
SDG 5 (ジェンダー) : お茶の水女子大学	(201-300)
SDG 6 (水・衛生) : 九州大学	(18)
<b>SDG 7 (エネルギー) : 茨城大学・九州大学</b>	(101-200)
<b>SDG 8 (成長・雇用) : 茨城大学・九州大学</b>	(101-200)
SDG 9 (イノベーション) : 東北大学	(=11)
<b>SDG10 (不平等) : 茨城大学・広島大学 他</b>	(201-300)
SDG11 (都市) : 筑波大学	(=54)
SDG12 (生産・消費) : 筑波大学	(=54)
SDG13 (気候変動) : 東北大学	(44)
SDG14 (海洋資源) : 九州大学	(18)
SDG15 (陸上資源) : 北海道大学	(17)
SDG16 (平和) : 慶應義塾大学	(32)
SDG17 (パートナーシップ) : 北海道大学	(53)

(引用) [THE Impact Ranking 2023](#) ページより

※1 1位タイを含む。

※2 = : 同順位校有 (THEページは、英語表記のアルファベット順に掲載)



環境研究総合推進費  
戦略的研究開発 S-18

環境研究総合推進費  
戦略的研究開発 SII-11

参加無料

対面 / オンライン

世界中で激しい気象災害が広がり、地球環境の将来に対する危機感が高まっています。それに対してカーボンニュートラルと適応策両面での対応策の加速が叫ばれ、我が国でも対策の進展が求められています。本シンポジウムでは、IPCC第6次及び第7次評価の共同議長をお招きし、気候変動問題に関する最新の知見を紹介するとともに、今後の課題について議論します。

適応・緩和研究の展望

気候変動国際シンポジウム  
未来ビジョン  
気候変動対策と

気候変動国際シンポジウム

2023年

10月18日[水]

10:00~17:00

会場：東京大学伊藤国際学術研究センター  
伊藤謝恩ホール・多目的スペース

事前登録制

シンポジウムの詳細・参加登録はこちらをご覧ください。

<https://s-18ccap.jp/symposium/%e3%83%bbseminar/post-2017/>



プログラム

研究交流ポスターセッション

10:00~12:00

自由参加 (伊藤国際学術研究センター多目的スペース)

気候変動国際シンポジウム (日英同時通訳)

総委会 村山 顕人 (東京大学)

「日本における洪水の適応策と緩和策の評価」

—— 風間 聡 (東北大学)

「地域生活への気候変動リスクの総合的評価と適応の課題」

—— 栗橋 聖 (東京大学)

パネル討論

—— コーディネーター 長谷川 利広 (農研機構)

15:20